

明治32年東京市京橋区加賀町（現西銀座）に生まれ、東京府立一中（現、日比谷高校）。第一高等学校、東京大学土木工学科を大正12年卒業し、東京市役所の電気局に俸職し地下鉄の調査に従事した。東京市の財政上の理由で市自らが地下鉄をやらないことになり、昭和9年都市計画地方委員会技師として群馬県に転出され、昭和11年には神奈川県に転勤、14年には我が国初めての技術者都市計画課長となる。昭和17年には富山県の土木課長として栄転、昭和21年には新潟県の土木部長として転じ昭和21年には同県副知事に任せられ、昭和30年4月には副知事を退任され、昭和53年8月10日死去された。

大正から昭和にかけて我が国の都市計画は都市計画地方委員会と県の都市計画課を軸として行われていた。都市計画委員会技師は単なる技師であって行政権限はない、県の都市計画課長は法科出身の若い所謂有資格者がなっていた。野坂氏も土木工学科出で有態は都市計画家だったが土木係主任技師であった。然し全国の都市計画地方委員会技術者の指導的人物だった。昭和14年には我が国最初の技術者として県の計画課長に就任した。都市計画屋が一般土木課長となったのも次いで土木部長に就任したのも副知事に新任したのも都市計画出身者として

は初めてのことだった。野坂氏を先達として其の後都市計画技術者から課長、土木部長、副知事、市長、助役になるものが相次ぎ社会的地位も向上し戦後の都市計画の発展の基礎をつくった功績は大である。

昭和初期までは都市計画は絵を書いていただけだと悪口を言われていたが野坂氏は都市計画事業に力をそいだ。神奈川県時代は県施行の都市計画事業として街路事業、相模原大和の新興工業都市（景観整備）の大事業に着手、又県のため事業だった相模川治水統制事業、京浜運河事業及び湘南地方の開発など神奈川のT.V.Aだと云われたがこれ等の事業に都市計画が参画した、このように都市計画事業の推進に心血をそそいた。

野坂氏は生粋の江戸っ子で趣味の人だった。三味線長唄の名取りで、又戦後のラジオの名番組「トンチ教室」のセミレギュラーとして活躍したことは名高い。新潟県時代に只見川開発とか三面川発電等2県にとっての大事業の難問題解決するに野坂氏の芸が多いに役に立ったと聞いている。作家野坂昭如氏は氏の二男である。

